

令和7年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和8年2月9日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）		自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 （★学校関係者評価を受けて）
魅力ある教育活動に努め、生徒の自ら学ぶ意欲と主体的な態度を育てる。	授業力向上	昨年度までの研究を基盤とし、ICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業実践を推進する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度までのICTを生かした学習指導を継続し、学校体制で積極的に活用した。 ・保護者、生徒、教職員ともに「仲間とかかわり合いながら学ぶことができている」と感じている。 ・基礎的・基本的な学習の定着について、不十分と感じている保護者の割合が昨年度より減少した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後のAI・ICTの社会への浸透を考えると、ICTの活用は必要なことではあるが、対話的な学びはICTを介さず直接行うことに意義があると思う。ほくほくトークのような場が、その具体例であると思うので、このような機会を増やすことが大切だと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の基礎的・基本的な学習の定着のために、計画的な教科コンクールの実施などに引き続き取り組んでいく。また問題解決的な学習を意識した授業実践にも取り組んでいく。 ・未来を生き抜く子どもたちにとって、ICTの使用が必須であるので、今までの積み上げは大切にしていきたい。
	人間関係づくり	豊かな体験活動の充実を生かした心に響く道徳教育の推進を図り、さまざまな道徳的価値観に気づき、考えを深める。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な生活アンケートと面談により、生徒の不安や悩みを早期発見、対応に努めた。 ・不登校生徒の居場所づくりに努め、生徒や保護者と相談しながら個に応じた対応をした。 ・授業やほくほくトークなどの活動を通して、仲間を認め合う雰囲気ができている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳は教育で身につけるものというより、本来、生活の中で体得するものだと思う。地域に住むさまざまな立場の人を訪ねたり、招いたりするなどして、対話とともに活動することが本当の意味での道徳性を養うことにつながるのではないかと考える。また、不登校生徒が少しでも減るような対策を講じてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業は、教科書を使用するだけでなく、ゲストティーチャーを招いたり、映像を活用したりするなど、さまざまな方法を考えていく。 ・常に教員が生徒情報の共有に努め、教職員が個々の生徒とのかかわりを大切にしていきたい。 ・生徒や保護者の思いを受け止め、迅速に、そして丁寧に対応をしていく。
生徒一人一人の持ち味を生かした集団活動を推進し、自らをより高め、すすんで社会（集団）に貢献しようとする意欲と態度を育成する。	生徒活動の活性化	生徒がすすんで取り組む活動を奨励し、取り組みの姿勢や成果から形成的に個の成長を認め、達成感と自己有用感を育てる。 自らすすんで体を鍛える組織的・継続的な教育活動を実践する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部や委員会によるキャンペーンの開催など工夫ある活動を行った。その期間だけががんばるのではなく、継続していけるようにすることが今後の課題である。 ・学校保健委員会などを通して、体力向上や健康な生活を送ることを生徒に意識させることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・上記地域の人々との関係の中から、さまざまな立場のさまざまな必要なことを知り、そうした経験から学校内の課題を見つけ、継続的に解決できる力を身につけてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も、体育祭や合唱コンクールなどの行事で実行委員を募り、生徒の自主性を育てていきたい。 ・自分たちの学校生活でなにが問題か、どのようにしていけばよいかを、学級や生徒総会で話し合い、生徒の力でよりよい学校にしていくような働きかけをしていく。
	安全安心な学校づくり	安全マニュアルによる訓練の実施と事後の見直しを教職員に周知し、安全管理の徹底と安全教育の推進に努める。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は「地震→津波」の2段階の避難訓練を4月初に行い、校区の実態に合わせた訓練を行った。 ・生徒の様子を見ながら、注意喚起など未然に事故やけが防止に努めた。 ・各行事は昨年度の反省をもとに内容を検討した。 ・昨年度に比べ、教職員が心と時間にゆとりをもって取り組むことができている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、学校と地域との連携が強化されていくとのことなので、地域のソフトパワーをいかした防犯体制づくりに検討してほしい。（生徒の活動時間帯・場所を周知することによる、平時の見守り強化など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・不審者対応の避難訓練や小中合同引き取り訓練を実施し、生徒の安全安心のための活動を行っていく。 ・ふだんから生徒の様子を見ながら注意喚起を行い、事故やけがの防止を行う。 ・仕事の分散化、会議の回数や内容の見直しなどを行い、教職員が心と時間にゆとりをもって生徒に向き合えるようになる。
教育諸条件の整備と改善を図り、安全安心な教育環境づくりに努める。	働き方改革	行事・諸活動・会議の見直しや精選を行い、よりよい教育活動を目ざすとともに、教職員が心と時間に余裕をもって取り組むことのできる体制づくりを進める。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理（不審者対応）の研修、不祥事防止の研修、合唱指導の研修などを行った。生徒の安全安心のために、また学級経営に生かすことができる学びを進めた。 ・保護者との関わりを意識し、教職員の持ち味を生かした教育活動を保護者に伝えていきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・社会全体が急速に変化している近年において、求められる人物像にも大きな変化があるはずなので、教職員が変化の前線にいる人々から話を聞くなどして、生徒に示すべき指針をアップデートしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員自身のスキルアップだけでなく、生徒の成長のために必要な内容の研修など、さまざまな研修を実施していく。 ・不祥事防止研修など定期的に実施している職員の研修も継続するとともに、その様子をHP等で紹介し、保護者への周知を図っていく。
	教職員の力量向上と連携・協力	現職研修を計画的に進め、教職員の専門性を高める。 職員の持ち味を生かし、連携・協力体制を強めた組織的な教育活動を展開する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理（不審者対応）の研修、不祥事防止の研修、合唱指導の研修などを行った。生徒の安全安心のために、また学級経営に生かすことができる学びを進めた。 ・保護者との関わりを意識し、教職員の持ち味を生かした教育活動を保護者に伝えていきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・社会全体が急速に変化している近年において、求められる人物像にも大きな変化があるはずなので、教職員が変化の前線にいる人々から話を聞くなどして、生徒に示すべき指針をアップデートしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員自身のスキルアップだけでなく、生徒の成長のために必要な内容の研修など、さまざまな研修を実施していく。 ・不祥事防止研修など定期的に実施している職員の研修も継続するとともに、その様子をHP等で紹介し、保護者への周知を図っていく。
保護者や地域、職員間の情報交換、協力体制構築に努め、生徒の実態に応じた支援体制を強化する。	保護者・地域との協力体制強化	保護者や地域との情報交換、協力体制構築に努め、安全安心で機能的な学校づくりを進める。 HP、学年通信を積極的に活用し、生徒の活動などの情報発信に努める。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に比べ、教職員の地域ボランティア活動への参加が消極的であった。生徒は積極的に地域のかたがたと関わることができた。 ・学年通信やHPを活用して、学校の様子を情報発信を行った。昨年度に比べ、保護者への周知の割合が高くなった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域は全体的に高齢化していて活動人口が減少している。これまで地域で行っていた活動の可能な部分を、生徒のボランティア活動として実施することはできないだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・例年の地域ボランティアや祭礼などへの参加だけでなく、地域がどんなところに生徒の力を必要としているかを知るための情報収集に努めていく。 ・学年通信やHPを活用して、学校の様子を情報発信を更に図ってほしい。

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに 上記のA・B・C・D で評価】

【関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】